

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192700223		
法人名	医療法人万裕会		
事業所名	グループホームラルゴ		
所在地	岐阜県高山市新宮700-45		
自己評価作成日	令和5年3月13日	評価結果市町村受理日	令和5年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2192700223-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の強みを生かし、介護・医療・福祉の連携のもと良質で心こもったサービスを提供し、障害や高齢になっても住み慣れた環境で安心して生活が継続できる地域拠点とする。」を法人理念とし24時間365日必要なときに介護サービスを利用者様に対して行っている。
 認知症疾患に対しては、常に職員が学習会を行い新しく更新されたケアを行える様、精神的、身体的、機能回復を考えながら、日々利用者様と一緒にラルゴでの生活が送れる様に向き合い支援している。
 また、それぞれ家族様と密に連絡を取り合いながら、ラルゴでの生活が見えるような関りを心がけながら、心配をされないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【コロナ禍により、時間短縮、1人訪問で訪問調査を実施した】
 利用者の生活力を維持することに力を入れており、近隣の喫茶店に行った際には会計をしている。職員と一緒に買い物に行った時には、カートを押して食材選びをしたりして、これまでやっていたことをやるチャンスを奪わないよう努めている。地域資源の活用も積極的に行い、地元のパン屋の移動販売などがホームの前に来てくれて、地域交流の一つにもなっている。
 同法人の施設が隣接しており、感染症対策や災害対策などは相互に協力して行っている。母体が医療法人であることも強みであり、看護師資格を持つ職員も多く、介護・医療・福祉の多角的な面からの支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「医療・介護・福祉の連携のもと良質で心のこもったサービスを提供し、障がいや高齢になっても住み慣れた環境で安心して生活が継続できる地域拠点とする」の基き毎月1回ある職員会議開催時には、全員で唱和し意識を高めている	新入職員には、法人内の施設を全部見学してもらい、理念に沿った支援に直接触れて感じてもらう機会がある。言葉としての理念だけでなく、職員が足並みを揃え、日常の支援の中で理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の回覧版にラルゴ新聞を年4回入れさせて頂き当事業所の活動を発信している。また、近くにある喫茶店を利用して頂き交流をしている。	地域行事は中止になっており、地域住民と関わることが減っている。しかし、地域の一員として、利用者が近くの喫茶店に出向き、コーヒータイムを楽しみながら、地域の人と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同上		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染状況を確認しながら、本年度は開催して行く方向で考えている。また、管理者変更年度でもあるので、地域の方々にも紹介する機会を持たなくてはと考えている。	現在は書面開催のため、対面での意見交換ができていないが、地域代表者とは話をする機会が多く、ホームの現状について理解が得られている。今後の開催方法は、市と相談して決めていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に電話にて、連絡を取るようになっている。ケアマネージャーや管理者からは、サービスの取り組み状況の報告は頻繁に行っている。地域包括からのご紹介を頂き入居して頂くようになった利用者様もありより良い関係制である。	不明点があれば、すぐに市の担当者に確認している。何か起きた時には迅速に連絡し、適切な助言をもらっている。運営推進会議の議事録を持参し、状況報告等をして、良い関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての定期的な学習会の開催、研修に参加した職員には必ず伝達講習を行うようになっている。職員一眼となって見過ごしが無いように注意し合える取り組みを行っている。	スピーチロックや不適切ケアに繋がる行動に関しては、管理者が常に職員を指導しており、自ら気づいて直していく雰囲気が生まれている。法人内で起きた事例や対応策を情報共有し、身体拘束に関する意識向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と虐待は一連のものと考え、上記と同様に考え実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度権利擁護、成年後見人の外部研修に行けなかったため、職場内研修として職員には周知し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、内容を確認しながら家族様に理解して頂き、実施する事としている。疑問点に関しては、丁寧に説明は納得を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族は、ラインを利用してまたは、面会時に意見を頂戴しそれらを出来る限り反映できるようにしている。	SNSを活用し、家族が気軽に意見を寄せている。家族の悩みも聞き、寄り添いながら良い関係を築いている。面会は感染対策に配慮し、顔を合わせて話をすることで安心してもらえるようにしている。	コロナ禍が明けると、家族との関わり方も変わってくるため、関係性の再構築について検討していくことが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは常づね意見や要望を確認できる機会を設け反映させている。	職員から積極的に意見が出るケースが多く、それを管理者が受けとめて対応している。個人面談では、事前のヒアリングシートを記入してもらい、職員の考えを管理者が把握した上で話を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年行う人事考課とは別に職員の仕事ぶりを見ながら、声掛けし、会話する時間を儲けるよう働きがけを行い離職防止に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人の能力にあった研修を提供している。研修前後には報告書に提出を必須とし与えられた研修ではなく自らが研修に取り込める様意識改革を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は、コロナ感染懸念し同業者との交流会の開催が無かったが、利用者が同じグループホームへの連絡を取り合って調整をする事で、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時から、担当職員が常に情報を得ることで、本人の安心確保につとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階から家族様とLINEで繋がるようにお願いし、利用者の状況について安心して頂ける内容でお伝えする事で信頼関係の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族様に自宅での生活状況を記入していただき、それを元に介護目標、計画に反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の時間が目的を持って生活出来るよう配慮している。また季節ごとのイベント、祝日行事を盛大に行い一緒に楽しみ感じ合い喜びを味わう様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんなに些細な事でも家族には連絡し、迅速な対応をし、すぐ解決する事で共に本人を支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染の観点から外部へ出かけることは、控えている。	馴染みの関係の継続が難しい中、新しい馴染みの関係を作ることに注力している。訪問理容やパンの移動販売のスタッフは、利用者の好みや特性を把握しており、新たな馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を配慮した上で、少し言い合いがあってもうまく割って入り回避するようにしている。男女間も楽しく話せるよう常に関わりを持つ支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者の家族の方からボロ布や新聞紙の提供があり、その都度、近況状態をお聞きし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お1人の希望や意向を把握し、利用者が生きがいを持って過ごす事が出来る様支援している。寄り添う気持ちを大切に、ご本人の気持ちを引き出せる様日々関わっている。	日常の会話や関わりの中で、思いや意向を把握し、職員間で共有している。帰宅願望のある利用者には、一緒に外に出て落ち着くまで散歩するなど、その時の利用者の意向に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に記入して頂いた生活歴を元に環境が大きく変化しないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活にメリハリがあるように、朝の申し送り時に本日の利用者個々の過ごし方を決めて行動して頂くようにしている。健康状態の確認も十分行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員が利用者家族とも連絡を取り合いながら、介護計画に反映させている。毎月のモニタリングで問題があれば、職員会議で話し合い解決している。	利用者と家族の意向を聞き、担当職員が毎日行うモニタリングの結果を踏まえ、介護計画を作成している。理学療法士が毎週利用者の身体状況を確認し、その意見も参考に支援に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は導入にしている介護記録にスマホからすぐ記録する事が出来る。その中でも共有したい事は共有申し送り欄に記載し担当職員にも伝わるようになっており、それらを計画に落とすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護、サービス付き高齢者向け住宅を併設しており、利用者の病状に合わせて移動できる様体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は出来ているものの、コロナ禍により活用は出来ていないのが、現状となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の往診があり体調の変化の把握をし適切な医療が受けられるようになっている。提携医以外が主治医の方は、家族が1回/月受診するようになっている。	かかりつけ医は、利用者の希望を優先している。法人の代表が協力医となっているため、毎日ホームに顔を出し、利用者の様子を確認している。薬局とも連携しており、薬剤師に薬の相談もできる。。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師と提携医・看護師との連携が取れている為、滞りなく支援が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居前、退院前には、必ず院内訪問を実施するようにしている。電話等での相談、調整を綿密に行い利用者に向かい入れる様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期(看取り)に対しては、入居時にある程度の話は行う事としている。経験豊富な職員・提携医・看護師と連携をとり情報共有することで、最後まで家族と共にゆとりあるケアを提供している。	看取りの時期が近づくと、家族、主治医と話し合い、適切な支援が受けられる施設等に移ることも選択肢に入れている。法人内の他の施設とも連携し、利用者がより良い最期を迎えられるような体制を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員に救急救命講習に参加出来る様指導している。オンライン講習会も取り入れ急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災、災害訓練は実施している。BCP作成も取り組んでおり、地域との交流体制を築いている。	開設当初から、土砂災害に関しては市とも話をして対策を講じている。周辺に民家が少ないこともあり、災害時には隣接する法人内の施設と連携して対応ができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの重要性、傾聴に対する姿勢の大切さは、日頃から話し合っており、時には方言対応でコミュニケーションを図っている。	利用者個々を理解し、これまでの生活歴も把握して支援している。言葉遣いや羞恥心に配慮し、忘れてしまうことで自信を失くさないよう、さりげなくフォローするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者目線で働きかけ、本人の要求や希望に合った支援を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の思いや体調を加味しながら、一日の過ごし方を決定しより充実した生活が毎日出来る様働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気に入った洋服を選んで頂いたり、女性の希望者には、ネイルをして楽しんでおり、中には、ヘアカラーを毎回され、ご自身の生活スタイルをずっと変えず生活を続けれる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	どの方も同じように食事準備、片づけを手伝ってもらえる様の配慮している。 イベントの時など職員も一緒に会話をしながら共に楽しみながらの食事をとっている。	食事作りは利用者も関わり、野菜の皮むきや盛り付けを担当している。食事中は皆で会話を楽しんでいる。行事食も提供し、豪華弁当のお取り寄せなど、非日常の食事も味わうことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量のチェックに加えて、おやつ時の時間食事の時の水分量は業務日誌に書留職員だれもが、共有し、利用者の状態維持に務めている。法人内職員の管理栄養士にも相談する事も可能である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きも職員がみ守り、不十分な場合は、指導もする。家族了解の元、定期で外部の口腔ケアを依頼し、状態を保たせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便・排尿は、見守りながら、回数を確認している。リハビリパンツを有効に使いトイレでの排泄が継続して行ける様支援している。声掛け誘導はしているが、本人のペースを守れるようにしている。	排泄の自立度が高い利用者が多く、トイレの確認は自己申告してもらったり、羞恥心に配慮しながらさりげなく聞き取ったりしている。排泄チェックはICT化しており、個々の状況が把握しやすい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り自力での排便コントロールを試みているのが基本で、内服や座薬に頼る事なく自然の午房茶を飲んで頂き腸への負担を少なくするよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として、体調を加味しながら、心地よく入浴を楽しんで頂いている。	ゆっくりと湯船に浸かってもらえるよう、一人ひとりに十分な入浴時間を設け、お湯をかけ流しにして入浴してもらっている。自分で体を洗い、できないところは職員が手伝っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて休息する時間を調整いよこになって頂いている。どうしてもうまく夜間の睡眠が取れない利用者には状況にあわせて、主治医に内服処方してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服は常に更新された処方記録が本人ファイルポケットに入っており、確認しやすくされている。居宅療養管理指導しているので、薬局との連携も非常に取りやすくなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前は本人の部屋掃除を中心に支援しつつ自分がしなくては行けない事を役割分担している。買い出し等に一緒に出かけ本人が希望されるもの1品買って頂く楽しみを設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の観点から、つい最近買い物に出掛けるようになったものの家族に外泊、外出をお願いする事は、まだ実施していない。	天気の良い日はホーム周辺を散歩している。周辺は坂が多く、体力作りもできる環境であり、それぞれの状況に合わせてコースを決めている。リンゴ狩りやいちご狩りなど、地元で楽しめる外出支援にも力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人用の金銭を管理する事は行こなってはいませんが、ラルゴに販売の方が来た時は立て替えのお金を渡して、自らお金を出して購入する楽しみをあげさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、利用者の希望に任せている。近年はLINE電話を活用して顔を見ながら話して頂いている。手紙を書く支援が出来る方がみえなくなっているのが実状である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	しっかり清掃を行い気持ちよく生活して頂いている。利用者と職員とで制作した作品を展示したり、季節を感じていただける色彩豊かな装飾を取り入れて楽しんで頂いている。	定期的に換気をして空気を入れ替え、気持ちよく過ごせるようにしている。旧暦に合わせ、利用者が昔から慣れ親しんだ季節の飾りつけをして、それを話題にしながら共有空間でのおしゃべりを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも同じ利用者とはばかりが話すことのないよう席替えを時折実施している。一人で静かにマッサージのできる場所、軽く運動のできる場所など工夫はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、自宅で使用していた筆筒、家具を持参して頂いている。本やアルバム、中には、PCを持ち込んで楽しんでみえる方もいる。	好みのものを持ち込み、それぞれが落ち着く居室作りをしている。居室でゆっくり過ごせるよう、声が響かないように配慮している。居室の掃除は、利用者が自分でやれる範囲で行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	敷地内には、花壇、畑があり物づくりの喜びに参加して頂いている。危険な事がないよう見守りつつ支援している。できることは何でもやって頂いている。		